

久留米絣作家
加藤伸子さん
(38歳)



▲えにしの姿



十八模様は久留米かすりのシンボルとしてあらゆるシーンに活用していきます。

久留米かすりファン倶楽部季刊誌
vol. 25
春号

Kasuri new wave

～新たな絣に挑戦するヒト・モノを紹介します～

経緯の絣が織りなす 表現の深さが魅力です

昨年、第五十三回西部伝統工芸展で、久留米絣着物『小夜時雨』で朝日新聞社大賞に輝いた加藤伸子さん。夜に降る雨が街の灯に照らされているかのようなリズム感に満ちた作品だと評価を受けた。

「普段あまり出さない縦の縞と斜めの縞の模様でどんな効果が出るのかなと思ってみました。全体のバランスや、余白をどれだけつくるか、縞の幅などを考え、模様の展開がわりとスッキリるように仕上げました」

そう話す加藤さんは、久留米絣の仕事に携わって十八年。短大の染織コースで学ぶうちに興味を持ち、地元久留米に戻って久留米絣の代表作家・松枝氏の門を叩く。

糸を巻いたり繫いだりと工程が多い久留米絣は、一通り工程を覚えるのに数年かかる。研修生として初めて作品をつくったのは学び始めてから四年後。

「まずは技術の習得に必死でした。絣の工程は体や感覚で覚えていきます。思っていたより糸の色が強く出たり、自分がイメージしていたものとのズレが生じたり、失敗は何度もあります。絵を描くのと違って、一本の糸から布ができています。だからこそ面白い」

最初にぼんやりと雨、風、花などのモチーフが浮かんでデザインを起していく。

「日々の生活の中で感じたものや目に映るものから連想してイメージを描いていきます。時間をおいて客観的に見ながら変化させ、デザインを確立していきます。織物は抽象的、叙情的な表現の一つだと思います」

久留米に生まれ久留米で育った加藤さんは、久留米絣をこう語る。

「久留米絣は、経と緯の絣が織りなす表現の広さ、深さが魅力です。アイデア次第でいろんな技ができデザインが尽きません。また、藍の色、木綿の肌触りも魅力。藍と木綿の相性の良さで、お互いを引き立てています。久留米絣は伝統工芸ですが、私の中では次に次に…と常に前に進んでいくもの。伝統の技法を用いながらも新しい表現にチャレンジし、土台の上に次の時代の土台を乗せていくものだと思います。私がつくった作品が、着る人にとって特別な物になったら嬉しいです」

現在、既に次の伝統工芸展に向けて作品への構想が膨らんでいる。

「まだまだ様々なものをつくって失敗したり成功したり経験値を重ねて、自分の作品の方向性を固めながら確実なものにしていきたいと思います。一反ずつ大切に丁寧につくっていくことが大事。すると次が見えてきます」

CONTENTS

- 1p ・Kasuri new wave
加藤伸子さん
- 2p ・久留米絣プロジェクト
三枚目を導く!
- 3p ・久留米絣イマジンプロジェクト～
・絣イベントINFO
・絣ショップ&カルチャー
- 4p ・かすりすと会員プレゼント
・藍の詩 富久織物工房
富久洋さん
・地場産くめ
SHOP INFORMATION

久留米絣プロジェクト三枚目を導く！



▲富久洋作「メキシコ合衆国」



▲松枝哲哉、松枝小夜子作「キリバス共和国」



▲イマジンワンワールド代表理事 高倉慶応さんと、事務局 刑部優美帆さん

一昨年の秋に完成した「キリバス」の久留米絣による最初の作品はくるめ絣プロジェクト推進の起爆剤となった。作者で重要無形文化財久留米絣技術保持者会会長の松枝哲哉さん、小夜子さん夫妻による久留米絣の振袖はこれまでの久留米絣のイメージをはるかに超える染めと織りの様々な技法を使った作品として高く評価された。

メキシコからゲームへ
久留米絣の糸を繋ぐ！

2018年春、井桁の会（山村善昭よしあき会長）の勉強会で集まった織元を中心に久留米絣によるくるめ絣プロジェクトの二着目の絣を創ろうと話が纏まり、綿花の産地であり、古代アステカ文明の歴史をもつメキシコをイメージした振袖をつくるプロジェクトがスタート。幸いにも地元企業である久留米ガスさんがスポンサーとしてバックアップすることになった。

当プロジェクトのデザインを担当した富久洋さんがアイデアを考え、同時に素材となる糸、染料、そして染めと織りの技法を考え、春から夏にかけて様々な試作を繰り返して、昨年秋11月初旬にメキシコの久留米絣の振袖が完成した。

福岡県がスポンサー！

三枚目は久留米絣で「ゲーム」を創る

（社）イマジンワンワールドの代表理事の高倉慶応よしあきさんは絣プロジェクトの意義と目的をこう語る。

「久留米絣とは何なのか、今の人たちに温故知新を問いつながら、これからの世代の方達に日本のものづくりの舞台を設け、着物文化をイノベーションしてもらいたい、挑戦して頂きたい、そんな思いでスタートしました。」

2014年にスタートしたこのプロジェクトは、今年で6年目を迎える。

昨年4月29日、くるめ楽楽国まつりで100カ国完成披露イベントを開催、マスコミ等にも取り上げられ、大きな反響を呼んだ。

温故知新を探りながら、日本のものづくりの原点を見つめる！

「このプロジェクトを推進する中で様々な方とお会いし、共鳴共感を頂き、応援そして協力をして頂きました。これは私にとって大きな自信になったと同時に、日本人としてのアイデンティティを再認識し、誇りに繋がりました。久留米市の大久保市長からもいろんなアドバイスを頂き、このプロジェクトの未来を有効かつ意義のある活かし方を今考えています。」と高倉さんは久留米絣三枚目に向けて意気込んでいる。

2019年1月現在、122カ国の着物が完成しており、残り84カ国となる。2020年3月には全ての国の振袖が完成する予定だ。

高倉さんの目にはすでに2020年のオリンピック開会式での各国のプラカードを持つその姿に母国の伝統である意匠を身に纏った2006名の振袖姿が見えているかもしれない。

絣イベントINFO

第22回 久留米かすり

藍・愛・で逢いフェスティバル

日時：2019年3月16日(土)・17日(日)
10:00～17:00

入場無料

場所：地場産くるめ(久留米市東合川5-8-5)

◇無料シャトルバス運行いたします。

【JR久留米駅前高速バス乗り場】(福岡・小倉方面)～

【西鉄久留米】(0番乗り場)～【会場】(地場産くるめ)

※両日ともJR久留米9:30始発。午前中は30分間隔で運行

■藍・愛・で逢い広場(出店26企業)

出店ブースでは、久留米絣や和・洋装製品・工芸品
小物・手工芸用のハギレ等の品々を特価で販売。

■久留米絣ファッションショー

両日1日2公演 11:30～/15:00～

■2019 久留米絣 新作発表会

一次審査 16日(土)／二次審査・審査結果発表 17日(日)

出店作品 手織絣部門・機械織部門 絣二次製品部門 約130点

■姉妹都市 福島県郡山市観光物産フェア

他、イベント多数。

お問合せ／同実行委員会(久留米絣協同組合)
TEL.0942-44-3701



地場産くるめ東合川店内に店舗を構えるアトリエ筑後十色館。デザイナーによるオリジナルのオーダーメイドコーナーです。久留米絣のお洋服から小物までお客様の要望にお応えして製作。地場産く

つて、お洒落を楽しみませんか！
入りの生地をお持ち込みいただくこともできます。好みの絣や古絣を使つてあなただけのお気に入りを作

絣ショップ&カルチャー
洋服から小物まで
オーダーメイド絣ショップ



◀デザイナー 今村知恵子さん(右)

お問合せ／
アトリエ筑後十色館(地場産くるめ 東合川店内)
〒839-0809 福岡県久留米市東合川5丁目8-5
TEL.0942-44-3700



重要無形文化財 久留米絣新作展

重要無形文化財技術保持者の新作を一堂に展示

◆アクロス福岡(2F匠ギャラリー)

日時：2019年2月25日(月)～3月3日(日) 10:00～18:00

※初日 12:00から 最終日 16:00まで

※アクロス福岡会場では手織りの実演も実施

◆地場産くるめ(2F資料館)

日時：2019年3月16日(土)・17日(日) 10:00～17:00

お問合せ／(公財)久留米絣技術保存会 TEL.0942-30-9322

久留米絣マンス「お伝さんに藍に行こう」絣トークライブ・バスハイク レポート

伝統的工芸品月間国民会議全国大会 福岡大会のサテライトイベントとして開催された絣トークライブとバスハイク。2018年10月17日(水)、久留米シティプラザ大会議室にて、「世界に通じる久留米絣」と題した絣トークライブには、老若男女約100名のお客様が来場されました。パネラーの4人が、日頃それぞれ違う視点で久留米絣に取り組んでいる話を中心に、久留米絣に対する思いを語っていただきました。また2018年10月19日(金)・20日(土)開催の「くるめ絣の里巡りバスハイク」では、久留米市内を巡る「お伝さんゆかりのコース」と「八女筑後絣の里巡りコース」の2コースが実施され、両日の「藍染体験」で、参加者は仕上がったハンカチを手に大満足の様子でした。



かすりすと会員プレゼント

藍の詩 富久織物工房
オリジナル絣ポーチ
5名様
※柄は選べません。
ご了承ください。



絣織元登場で紹介した藍の詩 富久織物工房さんの絣製品をプレゼント。応募方法はハガキで住所・氏名・年齢・ご希望のプレゼントを明記の上、かすりすと紙面への感想、今後取り上げて欲しい話題などご記入の上、下記の住所へお送り下さい。

応募締切／4月15日(月) 必着

※応募多数の場合、抽選となります。プレゼント当選は発送をもってかえさせていただきます。
宛先／〒839-0809 福岡県久留米市東合川15丁目8番5号
地場産くめ「かすりすとプレゼント」係

絣織元登場 創る

藍の詩 富久織物工房

スタイル(染織)デザインを専攻した。



藍の詩 富久織物工房
富久洋さん(43) [左から2番目]とそのご家族

藍の詩 富久織物工房
〒834-0114
福岡県広川町太田1236-1
TEL.0943-32-1048



左の建物(古民家)はギャラリーとして時折、



「私共の工房は手織りと機械織りの2種類の絣を織っています。手織りは技術の伝承、作家性を主眼においていた絣、機械織りは敢えて作家性を出さず、問屋やユーザーの嗜好を優先した絣作りで徹した商品づくりをしています」と自身の工房の強みを話すのは、広川町にある久留米絣織元の4代目、富久洋さん。



▲ギャラリー内

小さい頃から絣の現場を見て育つ。両親は共に重要無形文化財久留米絣技術保持者会会員であり、洋さんと奥様の雅美さんも同技術保持者会の会員である。洋さんは高校でデザインを学び、九産大芸術学部ではテキ

スタイル(染織)デザインを専攻した。「手織りと機械織り両方やっているところは私共を含め2軒のみ。私共には、手織りと機械織りの両方ができる環境があったので自然な形で仕事を継ぐようになりました。現在は機械織りがメインで生産しています。糸の太さで織り時間と量に違いが出ますが、私共は細番手の糸を好んで使います」

イメージワンワールド

久留米絣で「メキシコ」を表現！

現在、工房には機械織りが7台、手織り1台が稼働している。富久さん家族と織り子さん3人のパートナーで「メキシコ共和国」の着物に取り組んだ。正味3ヶ月の製作期間、デザイン決定から11月の完成まで、試行錯誤の中から得意とする「つまみ染め(刷り込み)」による濃厚で多彩な絣に挑戦。通常輝かせた。

1〜2色が普通だが、富久さんは全面に5色を入れ込む技術に挑戦した。「今回の仕事は冒険であり実験でした。つまみ染めという昔ながら手法を現代のデザインに使うという挑戦は普段できないこと。この経験が今後の仕事に活かしたいです。」と富久さんは目を輝かせた。

地場産くめ SHOP INFORMATION



猫の小物…1,080円(税込)〜

地場産くめ JR久留米駅店

【地場産くめ JR久留米駅店】
TEL.0942-27-5510 営.7:00〜19:00

地場産くめで最近人気の商品が猫の小物。ポーチとブローチは、きっとどれも欲しくなってしまう。1点物なので、気になる商品を見つけたらお早めに!

さりげないお洒落をご自身に、大切な方に♪地場産くめ各店舗にて好評発売中!

地場産くめ 東合川店・久留米物産館 六ツ門店

【地場産くめ】 TEL.0942-44-3700 FAX.0942-43-1020 営.10:00〜17:00 ※展示即売場は地場産くめ2Fにございます。

【久留米物産館 六ツ門店】 TEL.0942-36-0006 営.10:00〜19:00 久留米市六ツ門町7-13(六ツ門アーケード内) 毎月11日は「いい日地場産の日」開催! 毎月11日は全品11%OFF (一部商品除く)

ふるさととは「頑張り屋」です!
地場産くめ
公益財団法人久留米地域地場産振興センター